

漁師の父さん、やっと生き残る

～「津波」って大変なことなんだ～

(釜石市 震災当時小学4年 女子)

避難する途中に海が見える広場があって、津波は自分たちも見ることがないから、「どんなんだろう」と思って見てみたら、海がありませんでした。

「何でないんだろう」と思いながら、そのまま津波は見ないで行きました。後から知ったのですが、その時は波が引いていて、海が見えなかったのです。

私のお父さんは漁師で、何日かたって生きていることが分かりましたが、津波にのみこまれて死にそうだったみたいです。やっと生き残ったんだという話をいっぱい聞かされました。私はびっくりしたというか、「生きていたんだ」とうれしかったです。

父さんと一緒にいた人が亡くなったことも聞きました。「津波」、「津波」って簡単に言っているけど、大変なことなんだなって思いました。



「大津波が来る！」と叫んでも「そうなの？」とご近所さん

～「とにかく、逃げよう」と一緒に避難

(釜石仮設団地 60代 女性)

昼食後にコーヒーを飲んでいたら、地震が起きました。すると、目が不自由な主人が「普通の地震じゃないから逃げた方がいい」、「これは大津波の地震だ、いつものと違う、早く逃げろ！」とか言って、階段を降りて行こうとするんですよ。「じゃ、革ジャン着て」って出していたら、「そんなの着ているヒマないよ」って。とにかく着の身着のままで、先に主人を高台の神社に避難させました。

その時、おばあちゃんたちが立っていたので、「大津波が来るみたいだから、早く逃げて！立ってないで！」って言ったら、「そうなの？」って笑っているんです。みんなそんな感じ。「ほんとに来るから！」と叫んでいるところへお店をやっている隣のおばちゃんがリヤカー引っ張って帰ってきたので、「シャッターだけ閉めて逃げて！」と言うと、「だって、今お金を下してきたばかりだ」って。「いや、とにかく逃げよう」と言って、散乱している店先の物を片づけてやって、シャッターを閉めて、おばちゃんと一緒に逃げました。

実は前の年も大きな地震があって、津波警報が出て、避難命令が出たんだけど、何もなかったんです。それに、あの日の2日前にもちょっとした地震があって、津波注意報が出たけど全然来なかった。そういうこともあったから「たいしたことないな」という気持ちがどこかにあったのかもしれない。



「危ないから行かないで」と母に止められる

～3日後に父と再会、「てんでんこ」の意味実感

(釜石市 震災当時小学4年 男子)

授業を受けている途中に地震が来て、いつも避難訓練でやっているように机の下にもぐり、揺れがおさまるのを待ちました。

それから、先生に「避難するぞ！」って言われて、避難場所となっていた近くの高校へ避難しました。

後から母さんが来たけど、「父さんはまだ来ていない」と言われました。ぼくは父さんや家がどうなっているのか気になって、津波を見に行こうとしたけど、母さんに「あぶないから行かないで！」って言われてやめました。

その日は体育館の暗幕を床に敷いて、その上に毛布を敷いて寝ることになりましたが、ぼくは父さんとの連絡がとれずにいたので、あまり良く眠れませんでした。

やっと3日後に父さんが避難場所に来ました。家族がバラバラに避難してきて、なんて言うか、よく教わっていた「津波てんでんこ」だったなと思います。



最初はみんな「お殿様かお姫様」の避難所

福岡市 60代 男性

避難所に来た皆さんは、最初はお殿様かお姫様みたいに、じっと座っているだけなんです。私たち小学校区の役員が対応に追われているときも。同じ被災者なのにね。

そこで、「元気な方はどうぞ、一緒におにぎりを握ってください」、「お米を研ぐのを手伝ってください」とお願いしたら、若い人もお年寄りも我に返ったように、「それなら」と気持ちよく炊き出しの手伝いをしてくれました。

あれから、避難所にいる人たちの気持ちがひとつになったような気がします。だから、避難されてきた方々をお客様みたいにさせない方策、例えば必要な役割ごとにあらかじめチームを作っておいて、どこに何人配置するかを決めておく。避難者にも作業をお願いするということも考えておくことが必要じゃないかと思います。



中学生の「防災学」

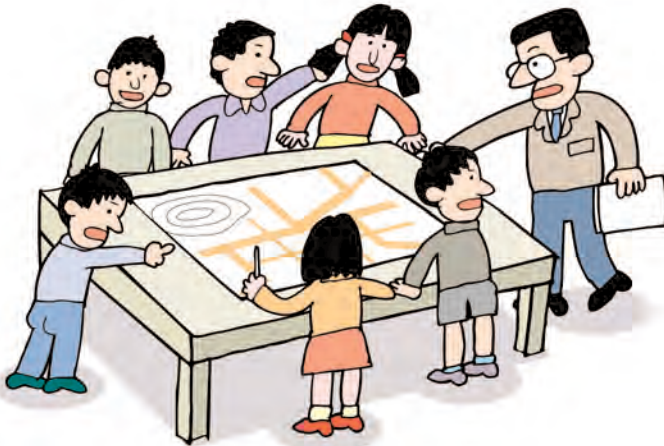
宮城郡 30代 男性 役場職員

地震の被害があった後、耐震診断の授業を受けた子どもたちが先生となって地域で講習会をやったんです。参加するおじいちゃん、おばあちゃん世代の人も、孫世代から言われると身にしみるのか、耐震の大切さを実感されたようです。

地場産品を販売する産業祭の中でも、中学生の子供たちが一つのテントを持って、模型やパネルを置いて、お客さんたちに耐震の大切さというのを一生懸命アピールしていました。

これをきっかけに、地元の中学校で「松島防災学」が始まりました。図上訓練をやってみたところ、いろんな意見が出て時間が足りませんでした。来年は図上訓練だけを、半日ぐらいかけてやろうかなと思っています。

これから大人になる中学生たちに防災の正しい知識を身につけてもらうことは、とても大切なことだと思います。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

ー簡単な手順を紹介しますー

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ



その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける



みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間



なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける



テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集

※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的



作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

